

はじめに

これは北海道に於ける災害写真のスライド資料目録です。

最初に北海道に発生した自然災害の写真を、スライド資料として整理して残そうと云う企画の経緯をお話します。突発災害の調査をした後、一般には報告書を作製しますが、報告書に採用した写真資料以外にも時間（とき）がたった後に、あれも採用して置きたかったと言った具合に研究上重要な示唆を与えるものが後になって相当数あるのではないかと懸念がかねがね私の脳裏を去来しています。特にこれらの資料は散逸し易い危険が大きい。1982年に刊行しました「地震と災害」研究成果普及版の編輯の際に、偶々適切な災害写真を集めるのに非常に苦勞した経験を思い出します。

地震のみならず、各種災害の生々しい現場の被害写真を各地区資料センターで蒐集整理保存してあれば、災害の生々しいおそろしさの有様を一般の人々に知らせ、今後の対策をたてる手段としては勿論、将来の研究にも大いに役立つだろうと痛感しました。

予防災害学の研究や災害防止の面から、先ず手をつけることは、災害が発生した生々しい様相、即ち加害要因と被災体との関係を知ることから始めねばなりません。それには、過去の各種の災害を災害別、年代別に比較しその推移を見直す必要があります。研究報告書などもありますが、真実を知る第一歩としては素直に被害そのものを目でみるに若くものはありません。しかし、過去のものは不可能ですから被害絵、又は写真に頼るしかありません。

尤も、絵や写真も夫々作者自身の思考や意図があり完全に客観的とは言えないかもしれませんが…。こんな意味から企画を思い立った次第です。

北海道を例にしても、1952年十勝沖地震や1960年チリ地震津波など古い災害を直接調査担当された方々も殆んど居られなくなり、資料も報告書に採用されたものは別として前述の如く隠れた貴重な写真資料などは散逸寸前にあります。

これらを出来るだけ防ぐ意味から、昭和58年に自然災害科学総合研究班と情報企画委員会とに、この企画の実施を申し出た結果承認され、58年度、59年度と予算化されました。

即ち58年、59年の両年度は「災害資料の収集とその解析による自然災害事象の研究」並びに北海道地区資料センターの事業費の一部、又、59年度は特に自然災害科学資料研究班より北海道地区部会に援助があり、まがりなりにも約3,000枚の写真スライド2組（オリジナルを含む）の作成と、この資料目録を脱稿、出版の運びとなりました。

北海道の災害史は西暦1467年頃からあるが、詳細の分かるのは約100年以降であり特に被害写真のあるものは昭和時代に入ってからで、就中、昭和20年以降のものが大部分であります。

今回は西暦1952年以降（1939年のもの1件を含む）のものにつき行った。これとて完全でなく残念乍ら昭和29年の第5号台風（通称洞爺丸台風）、その他、地汙り、雪崩、豪雪、冷害による農林災害、火山噴火等々の災害写真が漏れて居ります。又、最近発生した1987年層雲峡の地汙り落石（九州の邪馬溪の対策など参考になる）災害資料なども漏れて居ります。

今後、一層皆様の御協力によって北海道の災害資料の充実を図って行きたいと考えて居ます。

尚、本計画遂行に当たっては北海道地区は勿論他地区の災害研究分担者の方々、又、諸官庁（特に北海道庁、開発局、国鉄、関係市町村等々）報道諸機関など多数の方々の並々ならぬ御協力を得た事を慈に述べて深く感謝申し上げますと共に、今後も御協力並びに貴重な御助言の程をお願い申し上げます。又、特に北大の太田 裕、門村 浩、八畝 功、金田弘夫、菊地勝弘、鏡味洋史、高橋 将、阿部勝征、の諸先生をはじめ石川俊夫、福島久雄、山岡 勲の各名誉教授のご援助を得ました。又、色々と整理や細かい点でご協力いただいた吉田順子さん、田中さおりさん、大家美樹さんに感謝致します。

最後に蛇足乍らこれらの資料が今後予防災害科学の研究や一般庶民の方々に災害の具体的様相を知って頂くのに少しでも役立つ事を希望します。更にスライド影写と同時にその説明をテープレコーダーで説明します。

1988年

元自然災害科学北海道地区部会長

北大名誉教授 酒 井 良 男